

令和5年度第2回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和6年1月24日(水)18:00~20:00
- II. 場 所：Zoom 会議室
- III. 出席者：角田担当理事兼委員、大原主査、片岡委員、竹内委員、服部委員、及川委員、児島委員、事務局：井端事務局長、中村職員

IV. 検討事項

1. ビデオ試問外部点検・評価・助言モデル構想の試行実験に向けた計画と準備について

事務局から、資料③の「思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想」の試行実験に向けた詳細計画(案)、③.1の「思考力等の標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック参照例」、「学生への助言フィードバックの作り方」について、説明が行われ、一部修正を行い、次の通りとした。

「思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想」の試行実験に向けた詳細計画(案)

1. 試行実験の意義

様々な分野で答えの定まらない課題に、最善の解を見出していく知の変革が求められてきております。知識の伝達・獲得を中心とした教育だけでは、正解のない問題に対して、本質を捉え思考する力を鍛えるには不十分です。客観的な情報・データを根拠に、論理的・批判的に思考し、課題発見・課題設定を通じて発想や価値創造する課題探求型学修(PBL)による思考力等の獲得が不可欠です。

そこで、学修成果の質保証システムの一環として、学生が卒業までに思考力等を身に付けることができるようにするため、複数外部者によるビデオ試問で点検・評価を行い、その結果を大学の担当教員にフィードバックし、担当教員から学生一人ひとりに助言を支援するモデル構想をとりまとめました。その有効性を確認するため、試行実験を行い、検証することにしました。

今後、各大学で思考力等の外部評価を導入され、個別最適な学修支援を進められるときには、本協会のモデルを参考に取組まれますことを期待しております。

2. 試行実験の概要

(1) ビデオ試問による点検・評価の仕組み

- ① 試行実験の対象学生は、各大学でPBL(プロブレム・ベースドラーニング、プロジェクト・ベースドラーニング)科目で思考力等の訓練を受けた学生とし、10名前後~20名以内とします。
- ② 試行実験の実施分野は、4分野(法学、経済学、工学、栄養学)を有する大学で行います。本協会から大学の学長宛に試行実験の理解と協力依頼を行い、協力の得られる大学で実施します。
- ③ 評価者の構成は、ビデオコンテンツを提供した大学教員1名、他大学の教員1名、企業又は自治体関係者等1名の3名とします。
- ④ 試行実験の仕組みは、「点検・評価クラウド」に蓄積されているビデオコンテンツ(映像、写真、アニメーション、図・表等)に試問を受ける学生が大学で指定する教室からアクセスし、ヘッドフォンを用いてパソコン等端末を介して問題を受けとり、記述方式で点検・評価クラウドに回答を送信し、2段階の方法で点検・評価・助言を行います。
 - ④-1 第1段階として、3名の評価者が事前に点検・評価の基準について申し合わせた「思考力等の到達度点検・評価・助言ルーブリック」に基づいて、能力要素ごとに思考プロセスの到達度レベルを点検・評価します。

事前に申し合わせた能力要素の重みづけに基づいて、3名の評価結果を「各能力要素の点数表」とリンクさせて数値化します。また、数値化前の3名のルーブリック評価データも授業担当教員にフィードバックできるよう格納しておきます。
 - ④-2 第2段階として、3名の評価者の結果(数値データ、ルーブリック評価データ)を授業担当教員にフィードバックします。

授業担当教員から、学生の資質等に配慮して、本協会で作成した能力要素の助言内容(参照例)を基に、助言をテンプレート化して作成いただきます。また、学生が助言を踏まえて到達度の基準を振り返ることができるように、能力要素別の到達状況を一覧化します。

(2) 点検・評価後の助言フィードバックの仕方

① 助言テンプレートの作成

授業担当教員は、学生一人ひとりに思考プロセスの振り返りを支援できるようにするため、試問者からの点検・評価結果に基づき、学生の資質に合わせた助言をフィードバックします。本協会

は「学生への助言フィードバックの作り方」として、能力要素別の思考行動として、「何ができるようになればよいのか」目標を明確化し、段階的に学びを身に付けられるよう作成しました。

② ポートフォリオの作成・提出

授業担当教員は、学生に助言フィードバックした後、学生が次の目標に向けどのような点に注意して思考行動をすればよいか、ポートフォリオを提出させます。

(3) 試行実験の実施時期と実施体制

① 実施時期は、令和6年7月に行い、12月に助言の効果を確認します。

② 実施に伴うプラットフォーム等の環境及び運営全般の検討・準備は、本協会の外部評価モデル小委員会で行います。

3. 試行実験の実施環境

(1) 試問の対象分野設定、試問内容の相互理解・調整を行う組織

① 試問の対象分野は、外部評価モデル小委員会委員で試問コンテンツの作成に携わってこられた委員の担当分野とします。文系では法学の分野、経済学の分野、理系では工学と栄養学の分野とし、協力が得られることを前提にします。

② 試問内容の相互理解・調整を行う組織として、「外部者による点検・評価・助言コンソーシアム」（以下、「外部者コンソーシアム」という）を構築します。メンバーは、分野ごとにビデオコンテンツを作成した大学教員1名、他大学の教員1名、企業又は自治体関係者等1名の3名とし、ズームを用いて協議します。

③ 外部者コンソーシアムの役割は、分野ごとにビデオ試問コンテンツの思考力等を点検・評価する「到達度点検・評価・助言ループリック」の相互理解と確定、ビデオ試問コンテンツの調整・確定を行います。

(2) 「試問コンテンツ」の決定と「到達度点検・評価・助言ループリック」の確認・調整

① 「試問コンテンツ」の決定は、本来ならばビデオ試問コンテンツの公募・収集及び適格性の確認を実施した上で、分野別の外部者コンソーシアムを設けて決定しますが、試行実験では4分野の試作コンテンツを「試問コンテンツ」として決定します。

② 「到達度点検・評価・助言ループリック」の確認は、4分野の外部者コンソーシアムにおいて、点検・評価基準の内容・レベルについて協議し、評価者間で想定される回答の取扱いや思考力等能力要素について、評価の重みづけを協議し、確認します。なお、ループリックとビデオ試問コンテンツの整合性を確認する段階で、整合性がとれていない場合は、ビデオ試問コンテンツの内容又はループリックを修正します。

(3) ビデオ試問のプラットフォーム構築

プラットフォームに求められる機能は、本来はクラウド上に構築しますが、試行実験では本協会でも準備できないWebサイトに設けます。

① 「外部者コンソーシアム」の構築

4分野の外部者による到達度点検・評価基準の申し合わせは、「外部点検・評価検討会議」としてZoom及び掲示板で行います。

② 「点検・評価クラウド」の構築

ビデオ試問コンテンツの格納・オンデマンド配信、大学の教室端末からの記述回答の格納、4分野の外部者による記述回答の点検・評価結果データの格納と、評価結果の自動数値化、レーダチャート化、大学への点検・評価結果通知などのシステム化を行います。※1詳細参照

生成AIの使用を防止するため、試験監督者を配置します。

③ 「能力要素別の助言テンプレート」の構築

「点検・評価クラウド」からの結果を受けて、大学の担当教員が学生一人ひとり

に助言を迅速にフィードバックし負担の軽減を図れるようにするため、「能力要素別の助言内容(参照例)」を踏まえて、助言テンプレートを簡易に作成できるように掲示板に掲載します。

(4) 試行実験の参加協力依頼校と依頼条件

① 文系では法学分野、経済学分野、理系では工学分野と栄養学分野の委員校協力が得られることを前提に考えます。

② 本実験に伴う大学教室の端末機器(ヘッドフォン含む)は無償で使用させていただきます。なお、ヘッドフォンがない場合はレンタルしていただき、本協会でも費用負担します。

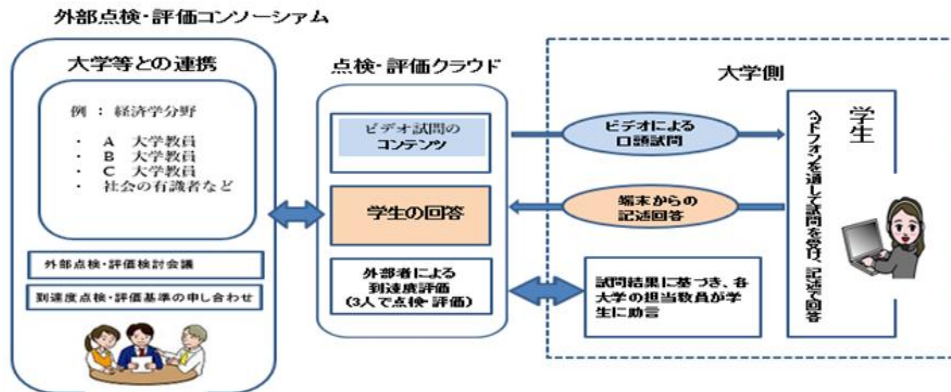
③ 本実験で得られたデータは、本協会の外部評価モデル小委員会委員に帰属します。

④ 評価結果の公表は、4分野ごとに行い、参加大学名は公表しません。

※1「点検・評価クラウド」の機能及び運営

① 分野別のビデオ試問コンテンツを格納し、実験当日に指定の教室に配信し、学生からの回答を「点検・評価クラウド」に格納します。

- ② 「点検・評価クラウド」に格納された回答を、後日、評価者(3人)でルーブリック評価を行います。
- ③ ルーブリック評価は、3名の評価者で学生一人ひとり、能力要素の点検・評価の基準欄の該当箇所に○をつけます。
- ④ 能力要素別の点検・評価基準のレベル(5, 3, 1, 0)に○をつけた個数を基に数値化します。また、3人の評価結果を集計し、平均値を算出します。
- ⑤ ④の評価結果(ルーブリック評価結果の元データ、回答の数値データとレーダチャート)を授業担当者に送信します。
- ⑥ 助言フィードバックのテンプレートを「点検・評価クラウド」に掲載し、授業担当教員が作成する助言テンプレートの作業を支援します。



- ① 分野別外部評価者(担当委員の他に、大学関係者1名と社会の有識者1名)の選定について各委員から、検討中の候補者として、法学分野の中村委員、経済分野の児島委員、工学分野の角田委員、栄養分野の服部委員から、以下の候補者があげられ、次回に改めて確認し、決定することにした。
 - ※ 法学分野・・・大学関係者：高島氏(京都産業大学)
社会の有識者：加賀山氏(元名古屋大学教員)
 - ※ 経済分野・・・大学関係者：選定中
社会の有識者：中部経済連合会
 - ※ 工学分野・・・大学関係者：高野氏(金沢工業大学)
社会の有識者：大原氏(東海大学名誉教授、株式会社オプテック)
 - ※ 栄養分野・・・大学関係者：由良氏(中部学院大学短期大学部)
社会の有識者：酒井氏(中部資料株式会社)

② 令和6年度実施に伴うスケジュールと試行実験の詳細計画について

事務局から、資料④の「試行実験のスケジュール(案)」について、次の通りの説明が行われ、一部修正の上、令和6年7月の試行実験に向け、以下の通り、決定した。

令和6年3月

- ・試行実験依頼大学の決定

令和6年4月

- ・文書にて外部者への協力依頼
- ・令和6年度第1回外部評価モデル小委員会開催(時間を設けて外部評価者との合同)
(試行実験詳細計画に基づく準備の確認、実験参加学生の人数確認など)

令和6年5月

- ・プラットフォームの構築開始

令和6年6月

- ・令和6年度第2回外部評価モデル小委員会開催(時間を設けて外部評価者との合同)
(プラットフォームの確認、外部者コンソーシアムによる検討会議の開始、試問コンテンツ及びルーブリックの格納など)

令和6年7月

- ・試行実験

令和6年8月

- ・点検・評価の実施
- ・点検・評価結果の数値化、レーダチャート化

令和6年9月

- ・担当教員へ点検・評価結果のフィードバック
- ・担当教員による助言テンプレートの作成、学生への助言実施
- ・担当教員による思考力等ポートフォリオの回収

令和6年12月

- ・令和6年度第3回外部評価モデル小委員会開催
- ・担当教員による思考力等の改善状況の確認
- ・実験結果の検証報告

3. その他（次回検討事項の確認等）

次回は、3月21日(木)16:00とし、3分野の外部者の決定、試行実験の詳細準備環境について検討することにした。